

財団法人日本アレルギー
協会関東支部

〒102-0074

東京都千代田区九段南 4-5-11

富士ビル4階

TEL 03-3222-3437

FAX 03-3222-3438

関 東 支 部

だ よ り

第 3 号 (2008 年 1 月発行)

関東支部だより第 3 号発刊について

財団法人日本アレルギー協会関東支部長 伊藤 幸治

新年あけまして、おめでとうございます。昨年度は財団法人日本アレルギー協会関東支部会員の皆様方には、当支部にご支援を賜りまことにありがとうございました。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。さて、本日、関東支部機関紙「関東支部だより」第 3 号をお届けいたします。第 3 号の「トピックス」として、わが国で開発されたタクロリムス(プロトピック)の臨床研究をリードして来られた東京慈恵会医科大学皮膚科教授、中川秀己先生に「アトピー性皮膚炎におけるタクロリムス軟膏(プロトピック)の上手な使用法」をご執筆いただきました。また昨年 7 月に開催された関東支部役員会での活動方針等を含む議事録、役員名簿さらに本年 2~7 月の日本アレルギー協会ならびに関連諸団体(日本アレルギー学会、患者団体など)の行事予定(山梨、長野県を含む関東地区分)を掲載しました。

本号の目次

- 1)トピックス アトピー性皮膚炎におけるタクロリムス軟膏(プロトピック)の上手な使用法(東京慈恵会医科大学皮膚科教授 中川 秀己) 第 2~4 頁
- 2) 関東支部役員会議事録 5~6 頁
- 3) 関東支部幹事会役員名簿 7 頁
- 4) 本年 1~7 月の日本アレルギー協会ならびに関連諸団体(日本アレルギー学会、患者団体など)の行事予定 7~10 頁

トピック

アトピー性皮膚炎におけるタクロリムス軟膏（プロトピック）の上手な使用法

東京慈恵会医科大学皮膚科教授

中川 秀己

はじめに

50年以上にわたり、ステロイド外用薬と保湿薬はアトピー性皮膚炎の外用治療の中心であった。しかしながら、ステロイド外用薬による皮膚萎縮、毛細管拡張などの局所的副作用の懸念からアトピー性皮膚炎の寛解維持のための長期使用に関しては制限があった。この問題点を解決するために開発されたのが免疫調整外用薬またはカルシニューリン抑制薬と呼ばれるタクロリムス軟膏である。現在ステロイド外用薬と並んで、アトピー性皮膚炎外用治療に欠かせないものとなっている。

本邦においては現在タクロリムス（プロトピック）の0.03%軟膏が2~15歳の患者に、16歳以上の患者には0.1%軟膏の適応が認められている。本薬はその作用機序がアトピー性皮膚炎の炎症病態にかかわる免疫担当細胞を選択的に抑制するので、ステロイド外用薬で認められるような局所性副作用がなく、しかも正常皮膚からは吸収されづらいのが特徴である。本稿ではタクロリムス軟膏の上手な使用法を論じてみたい。

アトピー性皮膚炎治療におけるタクロリムス軟膏（以下プロトピック）の位置づけ

プロトピックはステロイド外用薬と並んで、アトピー性皮膚炎外用療法の基本となるものであることは世界的なコンセンサスが得られている。特に、長期の寛解維持にはステロイド外用薬は間歇的使用に留め、プロトピックを主体として使用することが推奨されている。

プロトピックの効果と上手な使用法

プロトピックはステロイド外用薬のような局所的副作用がないのが特徴である。実際にプロトピック長期外用試験では本薬使用開始前に認められたステロイド外用薬による毛細血管拡張、皮膚萎縮、ステロイド潮紅などの症状は徐々に軽減してきている。従って、一般的にステロイド外

用薬と比べ、プロトピックは長期使用に向く薬剤と言える。

0. 03%製剤はステロイド外用薬との比較臨床試験ではステロイド外用薬の mild クラスよりは効果が優り、strong クラスより、やや効果が落ちる程度の薬効は示すと推察される。成人用の 0.1% 製剤は strong クラスの効果に匹敵する。これらの特徴から、プロトピックが第一選択になる場合としては次のものが挙げられる。

- 1) ステロイド外用薬使用で局所的副作用が起きやすい部位、即ち、顔面・頸部、間擦部位の皮疹
- 2) ステロイド外用薬長期使用により、皮膚萎縮・毛細血管拡張・多毛などの局所的副作用が既に出現している部位の皮疹

実際の使用に関する留意点

1) 皮膚刺激性について

灼熱感、ヒリヒリ感、ほてり、掻痒などの皮膚刺激症状が高率に認められるが、一般には外用後 3~5 日前後で軽快してくる。また、温度差、入浴等により症状が再燃することがある。従って、使用開始後、皮膚刺激感があることを患者と家族によく伝えておかなければならない。

この皮膚刺激感は顔面・頸部皮疹に使用した場合、約 8 割程度に出現する。また、糜爛・掻痒痕が認められる皮疹では高度となる。このような際に用いると高度の刺激感のため外用を中止せざるをえないこともありうる。従って、そのような場合にはステロイド外用薬を短期間使用し、糜爛・掻破痕を軽減させた後に本薬の使用を行う方がよい。

2) 用法・用量などについて

1 日 1~2 回塗布。小児では 2~5 歳 (体重 20kg 未満) では一回塗布量は 1g、6~12 歳(20kg 以上 50kg 未満)では 2~4g、13 歳以上(50kg 以上)では 5g までとなっている。2 回塗布の場合、朝夕を原則とする。ちなみに本邦以外の国では使用量の制限は添付文書には記載されていない。

従って、広範囲に皮疹が存在する場合はステロイド外用薬との併用を行うことにする。これは本

薬を大量に使用した場合、経皮吸収によるタクロリムス血中濃度上昇に伴う全身性の副作用を危惧したものであるが、血中濃度上昇は一部の患者に一過性に起こり、しかも低濃度であり、問題のないことも報告されており、実際、欧米では本薬の使用量制限はない。なお、小児患者用の0.03%製剤は、0.1%製剤と比較し、血中濃度が検出される率がより低く、しかも低値であった。

リンパ腫、皮膚がんの問題点について

マウス塗布癌原性試験において、0.1%製剤で高い血中濃度持続に基づくリンパ腫の増加が認められたため、注意喚起がなされているが、現時点において皮膚癌、リンパ腫ともに自然発生率と比べて増加してはいないことが証明されている。なお、日本においては皮膚癌、リンパ腫の発生は現在まで1例も報告されていない。更に日本においては、既に体重、年齢に応じた使用量の制限があること、外用の際の注意事項と欧米にない縛りがあり、適正使用がなされれば、まったく問題ないと言って良いであろう。

まとめ

アトピー性皮膚炎治療ガイドラインはアトピー性皮膚炎治療の混乱（特に誤ったステロイド外用薬に対する知識）に加え、営利を目的として科学的に根拠のない民間療法（アトピービジネス）が跋扈し、その結果として患者が多大な健康被害に陥ることが多くなったため、その混乱を避けるために作成されたものである。ガイドラインで重要な位置を占める皮膚炎を鎮静化する外用療法の中でエビデンスを持って皮膚炎に有効と言えるのは現時点ではステロイド外用薬とプロトピック軟膏である。この両者をうまく使用すれば、患者のQOLを向上させることは可能である。そのためには外用薬の特徴を熟知し、皮膚炎の症状、場所、年齢に応じた使い分けとともに、患者並びに家族の教育指導と共に正しい外用指導を行い、きちんとフォローアップしていくことが大切であることを強調したい。

(財)日本アレルギー協会関東支部幹事会議事録

1 日 時 平成19年7月31日(火) 18時30分から20時10分

2 場 所 LEVEL 東京會館 オリオンルーム

3 出席者 11名

4 議 長 支部長 伊藤 幸治

支部長から、幹事24名中出席予定者は11名、欠席者は13名、うち委任状提出者10名のため会議は成立する旨宣言した。

5 議 事

(1) 平成18年度事業概要報告

支部長から資料1に基づき説明した。

(2) 平成18年度収支決算報告および事業比率

事務局から資料2に基づき説明した。

以上(1)、(2)について全員に承認された。

(3) 理事会報告事項

支部長から資料3に基づき説明した。アレルギー週間中央講演会は来年2月23日(土)九段会館で開催されるが、プログラムはほぼ決まっている。

また、協会で2億円を目標とした募金を学会の会員と支援企業にお願いしていることについて説明があった。

幹事として始めて出席された栗原和幸先生が紹介され、先生から挨拶があった。

(4) 新幹事の件

池澤善郎先生は昨年評議員になられたので幹事になっていただいた。

中川武正先生は神奈川県から和歌山県に御陣勤になられたので、後任として前回の評議員選挙の際、神奈川県で次点であった海老澤元宏先生に関東支部幹事をお願いすることにした。

(5) 平成19年度業務担当

1) 地区別業務分担

東京中央地区と城東地区責任者は引き続き佐野靖之先生にお願いする。

神奈川地区委員中川武正先生の後任は海老沢元宏先生にお願いする。

以上、了承された。

2) 支部役員業務分担

増山敬祐先生は学術講習委員会に入ってください。

研究助成委員会は溝口昌子先生に委員長をお願いする。

学術講習委員会は富岡先生に留任を御願います。

会計・庶務は斉藤博久先生1人をお願いする(これまで、溝口先生とお二人)。 以上了承された。

(6) 平成19年度事業計画

支部長から資料5に基づき説明し、全員に承認された。(資料5:例年通りの各地区での講演会、患者相談会)

(7) 平成19年度収支予算

事務局から資料6に基づき説明し、全員に承認された。

併せて内部留保率について事務局から資料に基づき説明した。

(8) その他

1) 平成18年度個人会員状況

事務局から資料7に基づき説明した。関東支部会員は17年度の307名から18年度は276名になった。

協会では春秋2回の年会費請求に応じない場合、退会とみなしている。これに対し、幹事より、退会の猶予は学会なみに2年にしてはどうかという意見があり、理事会で検討してもらうこととした。

2) 日本アレルギー協会関東支部だよりの発行について

支部長より、今年の2月はじめと6月はじめに2回発行し、関東支部の個人会員に配布しているという説明があった。

支部長より、引き続き発行していきたいが、先生方に原稿をお願いするかもしれないのでよろしく願いしますという発言があった。また発行に要する費用は小額であると報告があったが、幹事より将来広告費で発行してはどうかという意見があった。

以上を以って議事を終了し支部役員会は閉会となった。

財団法人日本アレルギー協会関東支部幹事会役員名簿（*印 地区責任者、*理事）

長野地区 久保恵嗣* 山梨地区 増山敬祐*、埼玉地区 永田 真*、千葉地区 富岡玖夫** 岩本逸夫 岡本義孝 河野陽一*、
 東京多摩地区 森田 寛*、東京城北地区 大田 健* 久松健一、東京中央地区 佐野靖之* 山口正雄 東京城東地区 佐野靖之*
 鈴木直仁、東京城西地区 溝口昌子* 斉藤博久、東京城南地区 足立 満** 坂本芳雄、
 神奈川地区 秋山一男** 池澤善郎、海老澤元宏 栗原和幸、支部長 伊藤幸治*、 西岡清* 真野健次*

アレルギー協会主催・共催・後援の講演会、（山梨、長野県を含む関東地区 2008年2月~7月）

*一般向け、他は医師向け

主催・共催 後援の別	日 時	テーマ・内容	場 所	主催者
主催*	2月23日(土) 13:00-17:00	アレルギー週間中央講演会 「アレルギー性疾患の治療を主体にして」 講演とパネルディスカッション 河野陽一（総合司会） 飯島正文（アトピー性皮膚炎） 向山徳子（食物アレルギー） 増山敬祐（花粉症） 大田 健（喘息）	九段会館 千代田区九段南 1-6-5 東京メトロ東西線、半蔵門線、都営地下鉄新宿線「九段下」下車4番出口より徒歩1分	日本アレルギー協会 参加申し込み方法は 日本アレルギー協会ホームページ参照 ・お問合せ先： 第14回アレルギー週間中央講演会事務局 TEL 03-5159-7750 FAX 03-5159-7760
主催*	2月17日(日) 14:30-16:30	アレルギー患者相談会 「アレルギー疾患の予防、治療法をより良く知るために」	横浜新都市ビル(そごう) 9階 ミーティングルーム	日本アレルギー協会 (神奈川地区責任者秋山一男)
主催*	2月17日(日) 14:00-16:00	山梨アレルギー市民フォーラム2008	山梨大学医学部小講堂	日本アレルギー協会 (山梨地区責任者増山敬祐)
主催*	3月1日(土) 13:00-16:00	市民公開講座2008 「アレルギーの克服に向けて」	まるひろ人間店7F 『さくら草ホール』	日本アレルギー協会 (埼玉地区責任者永田 真)
主催*	3月8日(土) 13:00-16:00	千葉ブロック東部地区市民公開講座「アレルギー・アトピーの克服に向けて」	成田市保健福祉館	日本アレルギー協会 (千葉地区責任者富岡玖夫)
後援	3月9日(日) 9:15-18:00	第19回環境保健調査研究報告会 要申込	時事通信ホール 東京都中央区銀座	独立行政法人 環境再生保全機構
後援	2月9日(土) 16:00-19:00	神奈川吸入療法研究会 第10回講演会	パシフィコ横浜会議センター5F『小ホール』	神奈川吸入療法研究会 代表世話人 秋山一男

患者団体講演会、集会（山梨、長野県を含む関東地区 2008年2~7月）

会員以外の方でも自由に参加できます

日時	会名	会場	主催団体、連絡先
2月17日(日) 13:00~	アレルギーの最新情報： 斉藤博久(喘息の最新情報) 未定(食物アレルギー) 松寄くみ子・栗山真理子(入園入学：家庭・学校・医療機関の連携)	青山こどもの城： http://www.kodomonono-shiro.or.jp	NPO 法人アレルギー児を支える全国ネット「アラージェポット」 http://www.allergypot.net TEL090-4728-5421
3月1(土)~2日(日) 13:00~1600 1日(土) ぜんそく 2日(日) アトピー性皮膚炎	第14回アレルギー週間協賛行事：ぜんそく・アトピー性皮膚炎実践講座 「みんなで医療の受け方を考える」座談会・実践講座 「上手なスキンケアの方法」実践講座(講演・Q&A)・患者交流会	NPO 日本アレルギー友の会事務所(都営新宿線・半蔵門線住吉駅、JR 錦糸町駅より都バス「住吉駅前」下車徒歩3分)	NPO 法人日本アレルギー友の会 TEL 03-3634-0865(毎週火・土曜日 11:00~16:00) FAX 03-3634-0850. E-mail:j-allergy@nifty.com http://www.allergy.gr.jp/
3月16日(日) 13:00~16:30	食物アナフィラキシー親子のための栄養と心のケア： 小嶋なみ子(アレルギー科臨床心理士) 南谷典子(小児科管理栄養士)	かながわ県民センター 9F会議室	アレルギーを考える母の会 FAX 045-362-3106.
5月17日(土) 13:00~16:30	NPO法人設立記念(申請中)講演会：知っておきたいアレルギーの正しい知識~小児のアトピー・食物アレルギー・ぜん息について： 西間三馨(小児科) 赤澤 晃(小児科)	旭公会堂(横浜市旭区)	アレルギーを考える母の会 FAX 045-362-3106
5月25日(日) 13:00~16:00	講演会&相談会： 灰田 美知子(成人喘息) 秋山 一男(司会・成人喘息) 他、未定	国立病院機構相模原病院 臨床研究センター3F 研修室 小田急線小田急相模原駅下車徒歩10分	国立病院機構相模原病院アレルギーの会 http://allergy-net.web.infoseek.co.jp/kanja/
6月1(日) 12:30~16:00(予定)	(仮)講演会とQ&A	東医健保会館(東京都新宿区) JR 信濃町駅下車徒歩5分	NPO 法人日本アレルギー友の会 TEL 03-3634-0865(毎週火・土曜日 11:00~16:00) FAX 03-3634-0850. E-mail:j-allergy@nifty.com http://www.allergy.gr.jp/
毎月一回・不定期 (HPでお知らせします) 9:30~11:30	しゃべり場/自由が丘： 入退場は自由です。	目黒区緑ヶ丘文化会館第2研修室	NPO 法人アレルギー児を支える全国ネット「アラージェポット」 http://www.allergypot.net TEL090-4728-5421

毎月第三土曜日（祝祭日を除く） 13:00～15:00	患者交流会（ぜんそく・アトピー性皮膚炎） 当会ベテラン患者相談員が相談に応じます。	NPO 日本アレルギー友の会事務所（都営新宿線・半蔵門線住吉駅 JR 錦糸町駅より都バス「住吉駅前」下車徒歩3分）	NPO 法人日本アレルギー友の会 TEL 03-3634-0865（毎週火・土曜日 11:00～16:00） FAX 03-3634-0850. E-mail:j-allergy@nifty.com http://www.allergy.gr.jp/ 要予約
-----------------------------	--	---	---

社団法人日本アレルギー学会専門医制度における認定学会・講習会・研究会（* 関連学会）

（山梨、長野県を含む関東地区 2008年2月～7月、一部7頁と重複、）

以下は社団法人日本アレルギー学会の許可を得て、同会誌「アレルギー」2007年12月号（56巻12号1525-1537頁、会報「専門医制度情報 社団法人日本アレルギー学会専門医制度における認定学会・講習会・研究会開催予定（2008年・国内）より山梨、長野県を含む関東地区2 - 7月分を抜粋して転載した。

会名	会期	会場	担当施設・連絡先	会長・TEL
第8回食物アレルギー研究会	2月2日(土) 9:10~18:15	東京慈恵会医科大学1号館講堂(3階)	国立病院機構相模原病院臨床研究センターアレルギー性疾患研究部 神奈川県相模原市桜台18-1	海老澤元宏 042-742-8311
リウマチ・アレルギーシンポジウム (関東日より編集部注 詳細は日本アレルギー協会ホームページ参照)	2月2日(土) 13:00~16:30	津田ホール (東京)	日本予防医学協会健康開発本部 (市川栄一) 東京都江東区毛利1-19-10 TEL: (03-3635-1153)	
第14回山梨アレルギー市民フォーラム2008	2月17日(日) 14:00~16:00	山梨大学医学部小講堂	山梨大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科 山梨市中央市下河東1110	増山敬祐 055-273-6769
第31回埼玉県喘息・アレルギー研究会	2月23日(土) 14:40~18:35	埼玉県県民健康センター1F大会議室	埼玉医科大学呼吸器内科 (永田真) 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38	(当番幹事) 金澤 實 049-276-1319
第67回小児アレルギー同好会	2月23日(土) 16:00~18:00	ルグランドパレス(東京)	同愛記念病院小児科 東京都墨田区横網2-1-11	山口公一 03-3625-6381
第13回城東ブロックアレルギー懇話会	2月28日(木) 19:00~21:00	東武ホテルレバント東京4F「錦の間」	めざわ耳鼻科クリニック (目澤朗憲)東京都足立区扇2-46-13ケーアンドエー高野ビル2階	馬場 実
第14回アレルギー週間市民公開講座2008	3月1日(土) 13:00~16:00	まるひろ入間店 7F(さくらホール)	埼玉医科大学呼吸器内科 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38	永田 真 049-276-1319

第16回関東アレルギークラブ	3月1日(土) 14:00~	経団連会館 12F ダイアモ ンドルーム	同愛記念病院小児科 東京都墨田区横網 2-1-11	(当番世話人) 向山徳子 03-3625-6381
第9回小児吸入療法フォーラム	3月8日(土) 16:00-19:00	東京ガーデン パレス	国際医療福祉大学附属三田病院小 児科 東京都港区三田 1-4-3	(代表) 増田 敬 03-3451-8121
第61回横浜市アレルギー懇話会	3月12日(水) 19:00-20:30	横浜エクセル ホテル東急	(事務局)横浜市立大学附属市民 総合医療センター小児総合医療セ ンター 神奈川県横浜市南区浦舟町 4-57	(会長兼事務局 長)相原雄幸 045-261-5656
第35回耳鼻咽喉科アレルギー懇話会	6月12日(木) 16:30~19:00	ホテルグラン パシフィック メリディアン 29階「虹の間」 (東京)	日本臨床アレルギー研究所 東京都港区新橋 2-16-1	奥田 稔 03-3591-6409
第20回日本アレルギー学会春季臨床大 会	6月12日(木) ~14日(土)	ホテル日航東京	国立国際医療センター国際疾病セ ンター呼吸器科(事務局長 小林 信之)東京都新宿区戸山 1-21-1 TEL: 03-3202-7861(内 2126)	工藤宏一郎
第33回日本アレルギー学会専門医教育 セミナー	6月14日 (土)	ホテル日航東京	日本アレルギー学会事務所 東京都文京区本郷 1-35-26 石水ビル 7F	03-3816-0280
第22回アレルギー・好酸球研究会	6月21日 (土) 9:00~17:00	大手町サンケイ プラザ(東京)	(事務局分室)東京都港区赤坂 2-20-2 ベル赤坂 1F(株)グラフテ ィ	森 晶夫 (国立病院機構 相模原病院)
第17回小児臨床アレルギー懇話会	6月28日 (土)	横浜情報文化セ ンター	横浜市立大学附属市民総合医療セ ンター 神奈川県横浜市南区浦舟町 4-57	相原雄幸 045-261-5656
*第29回日本炎症・再生医学会	7月9日(水)~ 10日(木)	都市センターホ ール(東京)	聖マリアンナ医科大学難病治療研 究センター 神奈川県川崎市宮前区菅生 2-16-1	西岡久寿樹 044-977-8111(内 線 400)
*第39回日本職業・環境アレルギー学会 総会・学術大会	7月18日(金) ~19日(土)	東京大学医学部 鉄門記念講堂 (大学構内)	東京芸術大学保健管理センター 東京都台東区上野公園 12-8	須甲松信 050-5525-2457
第15回城東地区小児アレルギー懇話会	7月(土) 16:30~18:00 (予定)	(未定)	同愛記念病院小児科 東京都墨田区横網 2-1-11	向山徳子 03-3625-6381
第28回臨床アレルギー懇話会	7月(木) 18:00~21:00	東京慈恵会医科 大学1号館 5階講堂	東京慈恵会医科大学小児科 東京都港区西新橋 3-19-18	勝沼俊雄 03-3433-1111 (内線 3321)